授業科目	国語表現法	年次	1年次	単位	1単位	担当	鈴木　賢一郎
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
日本語の構造や言葉の役割を知ることを通して、国語力をより確実なものにする。

到達目標
1．日本語の構造や言葉の役割を知り、基本的な作文能力を養う。
2．手紙などの実用的な文章から、論文まで書けるようになる。

事前学習
テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	国語表現法とは	講義	
2	三分節法について	講義	
3	基本的な文章構成について	講義	
4 5	レポートを書く レポートの構成について	講義 演習	
6 7	課題レポートの添削	講義 演習	
8 9	文章を書く（論文）	講義 演習	
１０ １１	論文の添削	講義 演習	
１２ １３ １４	手紙・ビジネス挨拶文を書く 挨拶状・お礼状・就職関係など	講義 演習	
１５	終講試験		

使用テキスト：　看護学生のためのレポート・論文の書き方（ＫＩＮＰＯＤＯ）	参考書 必要時紹介する

評価の方法
出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	論理的思考	年次	１年次	単位	１単位	担当	大本　達也
			前期	時間	３０時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
論理的思考及び論理的思考に基づいた表現力と読解力を養う。

到達目標
１．論理的思考について学び、「読む・書く・聞く・話す」という実践の中で「論理的に思考する力」を身に着ける。

事前学習
特にない

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１	「論理的思考」について	授業	
２３	評論文を要約する、自分の意見をまとめる。発表する。	演習	
４５ ６	小論文の書き方について　小論文の構成　小論文を書く レポートの書き方について　レポートの特徴と作成について		
７８	討議法について　討議法とは　討議法の種類		
９ １０	カンファレンスについて 　カンファレンスの目的　役割　　進め方 グループワークについて		
１１ １２ １３ １４	ディベートについて 　ディベートの意義と目的　ディベートの方法 　ディベート技術　資料収集法　立論の作り方　討議技術 ディベート演習 　ディベート試合　立論　反対尋問　など ディベートの進行　判定		
１５	終講試験		

使用テキスト	参考書
資料	

評価の方法：
出席状況・演習の参加状況・レポート・終講試験を総合して評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	生活科学	年次	1年次	単位	1単位	担当	中谷　年成
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
日常生活における健康に影響する危険因子について学び、看護実践へとつなぐ。

到達目標
1．日常生活の様々な事項について、健康に影響する危険因子とその対策について理解する。
2．豊かな生活とライフスタイルの過去・現在・未来を思考し、生活観を培い看護実践への応用を考察することができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	生活科学とは	講義	
2	エネルギー・資源と生活	講義	
3	水と生活	講義	
4 5	環境と生活 生命科学と生活	講義	
6 7	生命科学と生活 情報・通信と生活	講義 演習	
8 9	衣服材料と洗剤の安全性・衣服の管理 住まいと生活	講義	
１０ １１ １２	安全な住まいと今後の課題①②③	講義 演習	
１３ １３	食生活と安全性 人間に課せられた今後の課題	講義	
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
配布資料	

評価の方法
出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護情報学	年次	１年次	単位	１単位	担当	西山　直樹
			前期	時間	３０時間		実務経験の有無：無

学習のねらい

医療・看護領域における高度情報化に対応できるようになるために、コンピューターを活用でき、看護に関する情報管理について学ぶ。

到達目標

1．医療・看護を取り巻く情報化の現実を理解し、看護師にとっての情報の活用・管理の必要性が理解できる。

2．情報のモラルの必要性や教法に対する責任について学び、情報管理の方法が理解できる。

3．看護の現場において必要とされるコンピューターの知識、活用スキルを身につける。

事前学習

特に必要なし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１回	第１部　情報の定義と特徴　情報の定義と特徴・社会と情報	講義	
２回	日本が入力の基本（ブラインドタッチ、文字カウント、単語登録等）	実習	
３回	文章作成の技術（文字の書式、文章の体裁、レイアウト、箇条書き等）		
４回	（テキストボックス、図形描画の挿入、など）		
５回	表計算とは何か（セルの書式設定、表計算）		
６回	グラフの作成テクニックとワードへの張り付け		
７回			
８回	（中間テスト）ワード、エクセルの操作についての確認		
９回	情報倫理について		
10 回	データ分析の準備（アンケートデータの加工作業とテーマの選定）		
11 回	レポート作成のための準備		
12 回			
13 回	レポート作成		
14 回	レポート作成状況の確認と課題のチェック		
15 回			

使用テキスト	参考書
看護情報学（医学書院）	必要時提示する。

評価の方法：

出席状況　授業態度　レポート提出　（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	哲学	年次	1年次	単位	1単位	担当	守津　隆
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
看護する者も看護される者も同じ人間であり、その人間は心と体を備えた限りある生物体である。人間に対する根本的な認識から看護を考える。

到達目標
1.「人間とは何だろうか？」という問題をいろいろな観点から考えることができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～7	諸学における哲学の位置　その対象 1．人間とは何か （1）人間と世界 （2）こころとからだ （3）表現と意味 （4）人間と遊び	講義	
8～14	2．共に生きるということ （1）わたしと他者 （2）わたしと社会 （3）ケアと看護 （4）愛と自由		
15	終講試験		

使用テキスト：	参考書
資料を配布する	

評価の方法
出席状況、レポートおよび終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	心理学	年次	1年次	単位	1単位	担当	三枝　好恵
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい

人間の心理と行動を科学的にとらえ説明する心理学の諸領域の基礎理論について学ぶ。

到達目標

1．　知覚・記憶・学習・思考・感情・性格（人格）・欲求など基礎心理学から看護に必要な日常行動等について考察できる。

2．看護実践における人間関係に影響する諸要因を包括的に考察する能力を養うことができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	心理学とは（対象、歴史、研究方法）	講義 （演習）	
2	心の働く（感覚・知覚）		
3	心の働き（思考・言語・知能）		
4	心の働き（学習）		
5	心の働き（感情・動機付け）		
6	心の働き（記憶）		
7	動機付け　パーソナリティー（性格）		
8	発達（発達の原理）		
9	発達（発達段階の特徴）		
１０	社会と集団		
１１	心理臨床（心の適応・不適応）		
１２	心理臨床（心理療法）		
１３	医療、看護と心理（対人援助、患者の心理）		
１４	医療、看護と心理（看護職者の心理）		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
心理学（医学書院）	授業で紹介する

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	社会学	年次	1年次	単位	1単位	担当	野々村　元希
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい

社会と社会の中でおこるさまざまな事象のなりたちやあり方についてまなぶ。

到達目標

1．　人間の社会的行為及び社会的存在としての人間について理解を深める。

2．　健康や看護と社会のかかわりについて捉えることができる。

事前学習

新聞やニュースより社会情勢について情報収集しておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	「社会学」とはどういう学問か	講義 （演習）	
2	社会化		
3	社会化とジェンダー		
4	地位と役割		
5	社会と自己		
6	映画「カッコーの巣の上で」		
7	映画「カッコーの巣の上で」		
8	感情と社会		
9	集団のなかの個人		
１０	組織の中の個人		
１１	社会的逸脱		
１２	予言の自己成就		
１３	社会的ジレンマ		
１４	自殺と社会		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
配布資料による	授業で紹介する

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	教育学	年次	1年次	単位	1単位	担当	中田　正浩
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
教育学に関する基礎的な知識を学び、「学ぶこと」や「教えること」について考察する。

到達目標
1．「教育」の概念について学び、「教育をなりたたせるもの」教授・訓育・養護・発達について学ぶ。
2．学びの場や目標・ひょうかなどより、教育の営みを考える。
3．現在教育の課題について理解する。

事前学習
テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	「教育」とはなにか　教育の対象	講義	
2	社会変動と教育　教育の組織化（学校）		
3	人を教えるということ　訓育		
4	教育の受け手を見守る		
5	教育を受けて成長する		
6	学びの場		
7	教育の目標と評価		
8	教育のメディア　教育をデザインする		
9	教育の担い手		
１０	教育の場の変動		
１１	キャリア教育（専門教育）		
１２	ジェンダーとセクシャアリティ		
１３	特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育		
１４	生涯教育		
１５	終講試験		

使用テキスト：　系統看護学　教育学（医学書院）	参考書 授業の中で紹介する

評価の方法
出席状況・授業態度・提出物・終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	文化人類学	年次	1年次	単位	1単位	担当	西垣　有
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい

文化人類学（人間の多様な社会や文化に関する比較研究）の知見のもとに、看護行為の前提となる人間の相互理解のあり方について検討し、看護師として人間・社会関係の構築に必要な資質や能力を学ぶ。

到達目標

1．　人間をめぐる様々な社会や文化の事象を「当たり前」と考えることが通用しない社会があることを理解できる

2．自文化と異文化への理解を深め、文化の多様性や個別性、普遍性について理解できる。

事前学習

テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	人間と文化	講義及び演習	
2	異文化理解とフィールドワーク		
3	フィールドの事例から		
4	人と人とのつながり（1）個人、人格、生殖		
5	人と人とのつながり（2）生殖、代理母		
6	人と人とのつながり（3）婚姻、家族・親族		
7	人生と時間（1）儀礼と境界		
8	人生と時間（2）		
9	人生と時間（3）		
１０	人生と時間（4）フリーターとトレーダー		
１１	宗教　アニミズム　呪術　妖術		
１２	健康　病気　医療（1）		
１３	健康　病気　医療（2）		
１４	死		
１５	終講テスト		

使用テキスト：	参考書
文化人類学（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。特に提出物（レポート）は重視します。

（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	人間関係論	年次	1年次	単位	1単位	担当	キャンベル 早川久美子 実務経験の有無：無
			前期	時間	30時間		

学習のねらい

多様化する社会の中で、看護の対象のもつ価値観や期待を理解し、尊重することは重要である。また、保健医療福祉専門職、家族、地域社会との密接な連携が不可欠である。いずれの場面においても、相手の思い、考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、協働で看護を提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力について学ぶ。

到達目標

1．自己を知ることを出発点に、看護の対象のもつ価値観や期待を理解する

2．看護の対象や多職種との人間関係を築くための態度や能力について理解する。

事前学習

テキストを読んでおく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	人間関係論とは	講義	
2	エリクソンの発達理論　自己概念	GW	
3	対人認知	演習	
4	対人関係と役割		
5	態度と対人行動		
6	集団と個人		
7	コミュニケーション		
8	カウンセリングと心理療法　ロジャース　フロイト		
9	カウンセリングと心理療法　行動療法		
１０	カウンセリングと心理療法の具体		
１１	コーチング		
１２	グループ研究：アサーティブ　コミュニケーション		
１３	グループ研究：アサーティブ　コミュニケーション		
１４	グループ研究：家族を含めた人間関係　地域を作る人間関係		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　人間関係論（医学書院）	授業中に紹介する

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	家族看護学	年次	1年次	単位	1単位	担当	池田　美和子
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
複雑かつ多様な家族を理解するにあたり、家族看護の対象の理解や家族看護を支える理論と介入方法、家族看護展開の方法について学ぶ。

到達目標
１．家族看護の対象とその介入方法について理解する。
２．家族看護展開の方法と、事例に基づく実践ができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	家族看護とは	講義	
2	家族看護の対象の理解	講義	
3	・家族のとらえ方　　・家族構造	演習	
4	・家族機能　　・現在の家族とその課題		
5～6	家族看護を支える理論と介入方法	講義	
7～8	家族看護展開の方法 ・家族看護過程とは ・家族看護の実践 ・さまざまな家族アセスメントモデル	講義	
9～14	事例に基づく家族看護学の実践	演習	
１５	終講試験		

使用テキスト	参考書
家族看護（医学書院）	

評価の方法：
授業態度・出席状況・レポート・終講試験を総合して判断する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	コミュニケーション論	年次	1年次	単位	1単位	担当	三枝　好恵
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
コミュニケーションの基礎について学び、基礎的なコミュニケーション能力を養う。

到達目標
1．コミュニケーションの特性・技術を理解し、コミュニケーションの基本を学ぶ。
2．演習を通して、コミュニケーションの実際を経験し、方法を学ぶ。

事前学習
テキストを読んでおく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	コミュニケーションの意義と目的について 　コミュニケーションとは	講義	
2 3	コミュニケーションの構成要素と成立過程 　コミュニケーションの手段 　構成要素と成立過程 　ミスコミュニケーション		
4 5	関係構築のためのコミュニケーションの基本 　自己紹介	講義・演習	
6 7	効果的なコミュニケーションの実際 　カウンセリング　他 日常場面からみるコミュニケーション	演習	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
基礎看護技術Ⅰ（医学書院）他	

評価の方法：
出席状況・演習の参加状況・レポート・終講試験を総合して評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	生命倫理	年次	2年次	単位	1単位	担当	守津　隆
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：無

学習のねらい

死生観を捉え、医療の変化を医学の進歩を踏まえて学び、生命と倫理をめぐる諸問題を明らかにする。

到達目標

1．　生命と倫理をめぐる諸問題について理解することができる。

2．歴史的考察を踏まえ、脳死や安楽死、臓器移植等の「生命倫理」の諸問題について考察できる。

事前学習

テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	生命倫理の成立史　安楽死、尊厳死問題	講義	
2	安楽死問題の歴史　東海大事件	GW	
3	緩和ケア　ホスピス運動の目的		
4	医療資源配分の選定基準		
5	生涯新生児問題　出生前診断の問題		
6	インフォームドコンセントと自己決定権		
7	脳死と臓器移植の問題性		
8	終講試験		

使用テキスト：	参考書
はじめて出会う生命倫理（有斐閣アルマ）	授業で紹介する

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	英語・英会話	年次	2年次	単位	1単位	担当	鈴木　伸子
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：無

学習のねらい
医療、看護の場面における英語表現の読解力の基礎や、基本的なコミュニケーション能力を学ぶ。

到達目標
1．専門分野における英語で書かれた書類等読む能力を向上させる。
2．医療、看護の場面におけるコミュニケーション能力を身に着ける。

事前学習
（授業用のファイルを準備してください）

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	Intoroduction　Unit 1	講義	
2	Unit 2 Listening speaking & Vocab		
3	Unit 3 Listening speaking & Vocab		
4	Unit 4 Listening speaking & Vocab		
5	Unit 5 Listening speaking & Vocab		
6	Unit 6 Listening speaking & Vocab		
7	Unit 7 Listening speaking & Vocab		
8	Unit 8 Listening speaking & Vocab		
9	中間試験		
１０	What are your symptoms?		
１１	Have you ever had any serious illnesses?		
１２	Take one tablet,four times a day.		
１３	How are you feeling today?		
１４	Review		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
看護学生のための英語コミュニケーション（南雲堂）	

評価の方法
中間・終講試験８０％　平常点２０％（－1点ずつの減点法　テキスト忘れ　居眠り等）

授業科目	解剖生理学Ⅰ	年次	1年次	単位	2単位	担当	前田　裕子
			前期	時間	60時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、看護を学ぶ上でも幅広く深い理解が必要である。

到達目標

1．　人体の概要と解剖学的用語を理解する。

2．　人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

事前学習

テキストを読んでおく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1-2	人体の概要　　人体の大要　解剖学的用語	講義	
3-4	人体とその構成 細胞の構造と増殖　組織の種類とその構成　細胞膜の機能		
5-7	人格器系 骨の形態と構造　人体各部の骨格　骨の連結		
8-10	筋系 骨格筋の構造と筋収縮機構　人体各部の筋		
11-14	血液・間質液・リンパおよび生体防御反応 血液成分と機能、体液の循環と移動、生体防御機構と関連臓器		
15-18	体液と電解質 体液の組成とｐＨ　ホメオスタシス　体液平衡		
19-22	循環器系		
23-26	呼吸器系		
27-29	体温とその調整		
３０	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　人体の構造と機能１ 解剖生理学（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	解剖生理学Ⅱ	年次	1年次	単位	2単位	担当	辻内　俊文
			前期	時間	60時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、看護を学ぶ上でも幅広く深い理解が必要である。

到達目標

1．　人体の概要と解剖学的用語を理解する。

2．　人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

事前学習

テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	消化器系	講義	
2	消化管と付属する器官		
3	消化と消化液の分泌		
4-5	吸収の仕組みと調整		
6	泌尿・生殖器系		
7	腎臓、尿路と男性・女性生殖器の位置と構造		
8	尿の生成と排尿の仕組み		
9-10	生殖細胞の形成と成熟及び人体の発生		
11-15	内分泌系　内分泌器官の場所と構造		
	ホルモンの働きとホメオスタシスの維持		
16-22	神経系　中枢神経と末梢神経		
	情報処理の働きと情報伝達の仕組みと調節		
23-	感覚器系　皮膚、舌、眼、耳と鼻の構造		
29	外部環境からの情報の取り入れと神経系で処理された感覚について		
30	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　人体の構造と機能1 解剖生理学（医学書院）	授業で紹介する

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	生化学	年次	1年次	単位	1単位	担当	中西　真理
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
生体を作っている物質の構造を知り、食餌性の栄養物質が生命活動の中でどのように変化するかを学ぶ。

到達目標
1．生体の主要成分の性質、構造について、および合成・分解経路などの代謝について理解する。
2．人体を構成している臓器や組織における特有の代謝（栄養）について理解する。

事前学習
テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	生体を構成する物質の構造と性質	講義	
2	（1）糖質の分類・構造・性質		
3	（2）脂質の分解・構造・性質		
4	（3）アミノ酸と分類・構造・性質		
5	（4）タンパク質の分類・構造・性質		
6	（5）核酸の分類・構造・性質		
7	（6）ビタミン		
8	生体内の物質代謝		
9	酵素と補酵素　糖質の代謝		
１０	脂質の代謝　　アミノ酸の代謝		
１１	核酸の代謝　　ポルフィリン代謝		
１２	その他の生体内物質		
１３	ホルモン　体液と血液　免疫		
１４	核酸と遺伝		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　人体の構造と機能２ 生化学（医学書院）	

評価の方法
出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	栄養学	年次	1年次	単位	1単位	担当	小橋　真弓
			後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

生命の維持、成長及び臓器・組織の正常な機能の維持、エネルギー生産のために必要な栄養素とその適正量、合理的な摂取方法について学ぶ。

到達目標

1．健康的な生活を営む上で必要な栄養と消化・吸収及び食事と疾病の関わりについて理解する。

2．食生活が「命の源」であることを踏まえて、よりよく生きることを考える。

事前学習

特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	栄養素の種類と働き	講義	
2	食事と食品、食物の消化・吸収・代謝		
3	ライフステージと栄養		
4	臨床栄養Ⅰ　ＢＭＩ計算　病院食の紹介		
5	臨床栄養Ⅱ　疾患別栄養管理		
6	臨床栄養Ⅲ　とろみ茶　疾患別栄養管理		
7	臨床栄養Ⅳ　嚥下訓練食（キザミ　とろみ　ミキサー）		
8	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　人体の構造と機能３ 栄養学（医学書院） 食品成分表（東京法令出版）	

評価の方法

出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護形態機能学	年次	２年次	単位	１単位	担当	礒垣　純子
			前期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

解剖生理学Ⅰ・Ⅱと合わせて、人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを学び、看護実践に結びつけていくのか理解することが目的である。

到達目標

１．生命維持にとっての恒常性維持の内容と意義を説明できる。

２．ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズの枠組みを使い、どのようなからだの仕組みを使って、日常生活行動を行っているのかを説明できる。

３．人の２４時間の生活行動を体がどのように遂行しているか、より健康でいるためにはどうしたら良いのかを考えることができる。

事前学習

1 年次に学習した解剖生理学Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておく。

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～2	科目目標・学習の進め方の説明 何のための生活行動か、恒常性維持のための物質の流通と調節機構について、体温、危険回避	講義	
3	課題の説明とグループ分け	個人ワーク	
4～6	ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズの枠組みから、どのような仕組みを使って、日常生活行動を行っているのか考える 呼吸・循環　：息をすること 飲食　：食べること 排泄　：トイレに行くこと 移動・体位の保持　：動くこと 睡眠・休息　：眠ること 衣生活・清潔　：お風呂に入ること 意思表出・コミュニケーション　：話す・聞くこと	G.W	レポート課題 成果物
7～8	成果物のプレゼンテーション	発表	
9	1～8 回の講義のまとめ、理解状況の確認	クイズ形式	
10 ～ 13	自分の日常生活行動から健康を考える	小集団ワーク 講義・G.W	
14 ～ 15	事例をもとに「地域のなかのさまざまな場所で生活する人」の健康レベルに合わせた生活を整える方法を考える。 全体のまとめ		成果物 評価

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学 ヴァージニア・ヘンダーソン　看護の基本となるもの	菱沼典子:「看護形態機能学　生活行動からみるからだ」，日本看護協会出版会

評価の方法：

出席状況・グループワークの参加状況・レポート（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	微生物学	年次	1年次	単位	1単位	担当	神田　靖士
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
各種微生物の特性とそれによって起こる感染症及び免疫に関する基礎的な知識を学ぶ。

到達目標
1．感染経路、生体の感染防御機構、化学療法、滅菌と消毒について理解することができる。
2．感染症の治療や院内感染対策について理解できる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	微生物学概論	講義	
2	細菌の培養環境と栄養、感染症の種類		
3	免疫（1）抗原と抗体　免疫の種類		
4	免疫（2）液性免疫と細胞性免疫		
5	滅菌と消毒		
6	感染症の治療と対策　抗生物質と化学療法		
7	予防接種　細菌学各論（1）		
8	細菌学各論（2）		
9	細菌学各論（3）		
１０	細菌学各論（4）		
１１	細菌、クラミジア、リケッチャ各論		
１２	ウイルス概論		
１３	ウイルス学各論		
１４	ウイルス学各論		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　専門基礎分野 微生物学（医学書院）	

評価の方法
出席状況・授業態度・提出物・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	病理学	年次	1年次	単位	1単位	担当	辻内　俊文
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

疾病の成り立ちおよび回復過程を理解するため、種々の病態像を把握し、看護の視点から健康問題を幅広い視野で捉える能力を養う。

到達目標

1．疾病の成り立ちおよび回復過程について理解することができる。

2．種々の疾患の概念と病態像について理解することができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	病理序論・病理検査	講義	
2	新生児スクリーニング検査、奇形		
3	黄疸		
4	胆石症、門脈圧亢進、梗塞、血栓		
5	塞栓、ＤＩＣ		
6	ネフローゼ　炎症		
7	腫瘍（良性・悪性腫瘍　がんの分類）		
8	腫瘍（がんの転移）		
9	消化器疾患（胃潰瘍　ポリープ　胃がん）		
１０	消化器疾患（早期胃がん 進行がん スキルス胃がん 大腸がんの発生）		
１１	消化器疾患（炎症性腸疾患）		
１２	肝疾患（ウイルス性肝炎）		
１３	肝疾患（肝硬変　肝がん）		
１４	血液の疾患		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
系統看護学講座　専門基礎分野 病理学（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	疾病論Ⅰ （循環器・ 血液・造血器）	年次	1年次	単位	1単位	担当	辻内　俊文 陰山　克 実務経験の有無：有
			後期	時間	30時間		

学習のねらい

機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

到達目標

1．循環器、血液・造血器系の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。

2．主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。

事前学習

解剖生理の復習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	心臓の構造と機能および循環器疾患の症状と病態	講義	
2	循環器疾患の診断および治療		
3	虚血性心疾患について		
4	虚血性心疾患について		
5	心不全および血圧異常について		
6	不整脈について		
7	弁膜症・心膜炎・心筋疾患・リンパ系疾患について		
8	先天性心疾患・血管疾患・リンパ系疾患について		
9	まとめ		
１０	血液疾患の検査・病態		
１１	赤血球系の異常		
１２	白血球及び造血器の腫瘍		
１３	悪性リンパ腫について		
１４	出血性疾患について		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
成人看護学Ⅲ　循環器 血液・造血器（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	疾病論Ⅱ （呼吸器 免疫・アレルギー膠原病　内科的腎臓含む）	年次	1年次	単位	1単位	担当	栗岡　晴海 栗岡　英行 実務経験の有無：有
			後期	時間	３０時間		

学習のねらい

機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

到達目標

１．呼吸器及び脳・神経系の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。

２．主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。

事前学習

解剖生理の復習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	呼吸器の解剖生理　自覚症状　他覚症状	講義	
2	診断の流れ　検査		
3	検査　治療		
4	外科手術　気道確保		
5	呼吸器に多い疾患		
6	（肺炎　結核　間質性肺炎　喘息		
7	ＣＯＰＤ　気胸　肺がん　等）		
8	アレルギー・免疫の仕組み　検査　免疫異常		
9	アレルギー疾患の総論・検査・診断		
１０	膠原病　リウマチ性疾患		
１１	関節リウマチ		
１２	全身性エリテマトーデス　全身性強皮症		
１３	内科的腎臓疾患		
１４	〃		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
成人看護学２　呼吸器 成人看護学７　脳神経（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	疾病論Ⅲ （内分泌・代謝 消化器）	年次	1年次	単位	1単位	担当	松浦　順平 良元　文弘 実務経験の有無：有
			後期	時間	30時間		

学習のねらい
機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

到達目標
1．内分泌・代謝、消化器系の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。
2．主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。

事前学習
解剖生理

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	内分泌・代謝の構造と機能	講義	
2	症状と病態生理		
3	検査（内分泌疾患の検査　代謝疾患の検査）		
4	疾患の理解		
5	内分泌疾患：下垂体前葉・後葉の疾患		
6	甲状腺疾患		
7	代謝疾患：糖尿病　高脂血症　等		
8	消化器の構造と機能		
9	症状と病態生理		
１０	検査		
１１	疾患の理解　食道の疾患		
１２	胃・十二指腸の疾患		
１３	腸および腹膜疾患　かんぞう・胆嚢の疾患		
１４	膵臓の疾患　急性腹症		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
成人看護学６　内分泌・代謝 成人看護学５　消化器　（医学書院）	

評価の方法
出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	疾病論Ⅳ （腎・泌尿器 感覚器）	年次	2年次	単位	1単位	担当	吉川聡　山村匡 久門正義　辻村大輔 実務経験の有無：有
			前期	時間	30時間		

学習のねらい
機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

到達目標
1．腎・泌尿器、感覚器の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。
2．主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。

事前学習
解剖生理

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	腎・泌尿器の構造と機能	講義	
2	症状と病態生理　検査（腎臓疾患の検査　泌尿器疾患の検査）		
3	主な疾患の理解		
4	主な疾患の理解		
5	眼の構造と機能　検査		
6	主な疾患の理解		
7	主な疾患の理解		
8	耳鼻咽喉の構造と機能　検査		
9	主な症状		
１０	主な疾患の理解		
１１	主な疾患の理解		
１２	歯・口腔の構造と機能　検査		
１３	主な疾患の理解		
１４	主な疾患の理解		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
成人看護学8　腎泌尿器　成人看護学13　眼 成人看護学14　耳鼻咽喉　成人看護学15　歯	

評価の方法
出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	疾病論Ⅴ （運動器 女性生殖器）	年次	１年次	単位	１単位	担当	寺西　朋裕 深井　和恵 実務経験の有無：有
			後期	時間	３０時間		

学習のねらい

機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

到達目標

１．運動器、女性生殖器の正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。

２．主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。

事前学習

解剖生理

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	運動器の構造と機能	授業	
2	症状とその病態		
3	疾患の理解　外因性疾患：骨折　脱臼　捻挫および打撲		
4	神経の損傷　筋・腱・靭帯等の損傷）		
5	非外傷性（内因性）の疾患：先天性疾患		
6	骨・関節の炎症性疾患　骨腫瘍		
7	代謝性骨疾患　神経の疾患		
8	脊椎の疾患		
9	上肢及び下肢の疾患　運動器不安定症		
１０	女性生殖器の構造と機能　症状とその病態		
１１	検査と治療		
１２	女性生殖器系疾患の理解：外陰、膣の疾患		
１３	子宮の疾患　卵巣の疾患		
１４	更年期障害　感染症　不妊		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
成人看護学 10　運動器 成人看護学 9　女性生殖器（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	疾病論VI （脳神経 感染症 感覚器：皮膚）	年次	2年次	単位	1単位	担当	三浦　智　栗岡晴海 西脇洋子 実務経験の有無：有
			前期	時間	30時間		

学習のねらい

機能障害によっておこる症状と主な疾患・治療について学ぶ。

到達目標

1．正常な構造と機能を理解し、機能障害と回復への過程を理解できる。

2．主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について理解することができる。

事前学習

解剖生理

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	脳・神経の基礎的知識	講義	
2	症状とその病態生理（意識障害、高次脳機能障害）		
3	（運動・感覚機能障害　反射性運動障害　頭蓋内圧亢進症　等）		
4	検査と治療		
5	治療（外科的・内科的）		
6	主な疾患の理解		
7	主な疾患の理解		
8	感染症とは　主な微生物　診断の流れ		
9	感染の診断法　治療の流れ		
１０	疾患の理解：気道　循環　食中毒　消化器　性感染症　尿路		
１１	寄生虫　ウイルス感染症　真菌　ＨＩＶ　新興感染症　耐性菌		
１２	皮膚の形態と機能　主要症状と病態生理		
１３	検査方法と留意点　主な疾病の理解：湿疹　皮膚炎　皮膚感染症		
１４	腫瘍　熱傷		
１５	終講試験		

使用テキスト：	参考書
成人看護学10　運動器 成人看護学9　女性生殖器（医学書院）	

評価の方法

出席状況・授業態度・終講試験にて評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	薬理学	年次	１年次	単位	１単位	担当	大西　良治
			後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
臨床において安全に薬物を投与し、その経過を捉えるための基礎を学び、薬物療法を受ける対象の理解、与薬の技術や服薬指導につなげる。

到達目標
１．薬の作用機序、有害作用および薬物の管理について理解する。
２．薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をするうえでの留意点を理解する。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
	薬理学総論	講義	
1	薬物の作用するしくみ	G.W	
2~3	薬物の体内挙動（薬物動態学）		
	薬理学各論		
4	抗感染症薬		
5	抗がん薬		
6	免疫治療薬		
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬		
8	末梢での神経活動に作用する薬物		
9~11	中枢神経系に作用する薬物		
12~13	循環器系に作用する薬物		
14	代謝障害		
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　薬理学 （医学書院）	必要時提示

評価の方法：終講試験、課題提出などによって総合的に評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	社会福祉論	年次	1年次	単位	1単位	担当	吉川　英雄
			後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
生活者のくらしの実態と，生存権に根ざしたと社会保障・社会福祉制度について理解する。

到達目標
１．社会保障の理念・形成過程やわが国の体系やその特徴を理解できる。
２．医療保険の制度や介護保険制度の目的やその種類、給付の形態を理解する。
３．社会保障の変遷を学びながら、現在の社会福祉の課題を学ぶ。
４．機能障害をもちながら生活を調整するその人が社会保障を活用している生活を知る。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	オリエンテーション	講義	
2	生活問題の展開		
3	社会保障制度		
4	年金保険・医療保険		
5	雇用保険・労災		
6	社会福祉の法体系と関係機関		
7	高齢者福祉・老人保険		
8	介護保険		
9	障害者福祉		
10	児童家庭福祉		
11	公的扶助制度		
12	社会福祉援助の方法	ケースワーク、G.W	
13	連携		
14	まとめ　事例検討		
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　社会保障・社会福祉 （医学書院）	必要時提示

評価の方法：筆記試験、レポート（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	公衆衛生	年次	２年次	単位	１単位	担当	畠山　雅行
			前期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

地域住民の生（生命・生活・生産）を幅広い学問体系からなる公衆衛生を理解し、地域の健康及び個人の健康の維持増進を目指す組織的な取り組みである種々の公衆衛生活動を理解する。

到達目標

１．個人及び集団における健康の意義を理解する。

２．健康の保持増進のための組織的な保健活動について理解する。

事前学習

特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	公衆衛生学総論	講義	
2	公衆衛生の活動対象	G.W	
3~4	公衆衛生のしくみ		
5~7	集団の健康をとらえるための手法		
8~10	環境と健康		
11	感染症とその予防対策		
12	国際保健、災害保健		
13	地域における公衆衛生の実践		
14	学校・職場と保健		
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　公衆衛生 （医学書院）	必要時提示

評価の方法：終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	運動科学	年次	１年次	単位	１単位	担当	冨田　寿美恵
			後期	時間	２０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
健康づくりのための運動の意義を理解し、ライフステージに応じたスポーツが実践できる基礎を学ぶ。

到達目標
１．運動生理学の基礎が理解できる。
２．健康生活を支える運動の意義を理解し、ライフステージに合わせた個人及び集団の健康づくりが理解できる。
３．運動をとおして自己の体力の向上と健全な身体の発達を図る。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	健康の概念、現代社会と健康	講義	
2	健康づくり運動の実際		
3	運動疫学の基礎		
4	健康づくり施策	DVD 学習	
5	健康づくり運動の基礎（有酸素性運動の基礎／他）		
	ライフステージに応じたスポーツ		
6～	実技		
9	ストレッチ、ソフトバレー、バスケットボール、卓球	実技	
	レクリエーション		
10	終講試験		

使用テキスト	参考書
健康づくりのための運動科学　化学同人	必要時提示

評価の方法：筆記試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	関係法規	年次	2年次	単位	1単位	担当	青木　千鶴香
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
法律とはなじみにくく難解なものだと敬遠されがちであるが、学生が身近に興味を持つことができるよう学んでゆく。

到達目標
健康な生活を維持するために必要な法規を修得させると共に、特に保助看法については看護職者の役割と法的責任について理解することができる。

事前学習
テキストを読んでおく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	法規の基礎知識	講義	
2	保健師助産師看護師法	講義	
3	研修	講義･GW	
4	研修	講義･GW	
5	発表　人に関する法律	講義･GW	
6	発表　物・場所に関する法律	講義･GW	
7	発表　介護保険法	講義･GW	
8	発表　特別な配慮を必要とする人に関する法律	講義･GW	
9	発表　社会的弱者政策に関する法律	講義･GW	
10	療養上の世話　診療の補助の判例	講義	
11	法律の概要	講義	
12	研修	講義･GW	
13	看護職の働き方改革	講義	
14	まとめ	講義	
15	試験	講義／試験	

使用テキスト	参考書
わかりやすい関係法規（ヌーヴェルヒロカワ）	資料作成より

評価の方法：終講試験（小テスト加味）（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	治療総論Ⅰ 食事療法４時間 放射線１０時間 臨床検査１６時間	年次	１年次	単位	１単位	担当	三井悦三　坂本琢 大池秀子 実務経験の有無：有
			後期	時間	３０時間		

学習のねらい
専門職種の役割や、疾病の回復を促進する各治療の基本的理論と、生活の視点に立った各種の治療方法の実際を学ぶ。

到達目標
１．疾病の回復のための栄養食事療法について根拠と方法を理解することができる。
２．放射線治療の実際と特徴、放射線による障害と防護を理解することができる。
３．検査値の正常・異常が判断でき、ヘルスアセスメントに活用できる基礎知識を学ぶ。
４．検査内容と疾患とのつながりを理解することができる。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1~2	疾患別の栄養食事療法	講義	
3	放射線療法の目的とその適応		
4	放射線療法の種類と特徴		
5~6	放射線療法の実際		
7	放射線障害と放射線防護		
8	臨床検査とその役割		
9~11	検体検査		
12~14	生体検査		
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　臨床検査　（医学書院） 新体系　看護学全書　治療法概説 （メヂカルフレンド社）	必要時提示

評価の方法：終講試験、課題提出などによって総合的に評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	治療総論Ⅱ 運動・リハビリテーション１４時間 手術療法１６時間	年次	１年次	単位	１単位	担当	赤松　眞吾 松浦　純平 実務経験の有無：有
			後期	時間	３０時間		

学習のねらい
専門職種の役割や、
疾病の回復を促進する各治療の基本的理論と、生活の視点に立った各種の治療方法の実際を学ぶ。

到達目標
１．機能障害に合わせた運動・リハビリテーションについて理解することができる。
２．リハビリテーションに関係する職種を学び、協働でその人の生活を支える連携が理解できる。
２．手術療法の特徴と身体侵襲、麻酔法、外科的治療の実際について理解することができる。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	運動療法とは	講義	
2	運動療法の種類と特徴		
3~4	運動療法の実際		
5	リハビリテーションとは		
6~7	リハビリテーションの種類と特徴		
8	手術療法の目的と意義		
9	外科手術手技・処置の基本		
10	麻酔の知識		
11	手術室の管理		
12~13	救急医療とその実際		
14	臓器移植		
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　臨床外科看護総論 臨床外科看護各論　（医学書院） 新体系　看護学全書　治療法概説 （メヂカルフレンド社）	必要時提示

評価の方法：終講試験、課題提出などによって総合的に評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護学概論	年次	1年次	単位	1単位	担当	青木　千鶴香
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
看護を志す初学者としての、基本的な考え方について学ぶ。

到達目標
1）看護とは何か、看護師とはどのような職業かについて理解することができる。
2）人を世話するにあたって基本となる姿勢、考え方やどのような援助が人のためになり、または人のためにならないかなどについて理解する。

事前学習
テキストを読んでおく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	看護とは何か	講義	
2	看護とは何か　…　私の看護観	講義	
3	看護の継続性と情報共有	講義	
4	看護の継続性と情報共有　…　事例	講義	
5	看護の対象の理解　…　人間のこころとからだ	講義	
6	看護の対象の理解　…　人間の「暮らし」の理解	講義	
7	国民の健康・生活の全体像の把握　…　健康のとらえ方	講義	
8	国民の健康・生活の全体像の把握 …　国民のライフサイクルと健康・生活	講義	
9	看護の提供者　…　職業としての看護	講義	
10	看護の提供者　…　看護職の資格と養成にかかわる制度	講義	
11	看護における倫理	講義	
12	看護における倫理　…　看護実践における倫理問題への取り組み	講義	
13	看護の提供のしくみ	講義	
14	広がる看護の活動領域	講義	
15	まとめ　終講試験	講義／試験	

使用テキスト	参考書
『系統看護学講座　専門分野Ⅰ 基礎看護学(1)　看護学概論』 医学書院	必要時、授業で紹介する

評価の方法：終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	基礎看護技術論Ⅰ （技術の概論）	年次	1年次	単位	1／3単位	担当	大池秀子 実務経験の有無：有
			前期	時間	10時間		

学習のねらい
「看護」における「技術」とは何かについて考察する。

到達目標
1．看護技術を学ぶにあたり「技術とは何か」について考えることができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	シラバスの説明 一看護場面よりの考察	授業	
2	技術とは何か	授業	
3	看護技術の特徴	授業	
4	看護技術の範囲	授業	
5	看護技術を適切に実践するための要素	授業	

使用テキスト：	参考書
基礎看護技術論Ⅰ（医学書院）	「看護覚え書」

評価の方法
出席状況、授業態度、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	基礎看護技術論Ⅰ（コミュニケーション）	年次	1年次	単位	2／3単位	担当	大池　秀子
			前期	時間	20時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
コミュニケーションの特徴を理解し、その意義と目的から看護に必要なコミュニケーションスキルを身につける

到達目標
1.　コミュニケーションの特徴を理解し、その意義と目的について説明できる
2.　コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解して、メッセージの適切な伝達方法を学ぶ
3.　コミュニケーションの基本的な方法と種類を学び、実践できる
4.　コミュニケーションに障害がある人への対応を学ぶ

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	コミュニケーションってなに？（コミュニケーションの意義と目的）	講義	ｼﾗﾊﾞｽ説明
2 3	コミュニケーションに必要な材料 （構成要素と成立過程）		自己紹介 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ ﾗﾍﾞﾙﾜｰｸ
4	コミュニケーションの種類 （言語的・非言語的コミュニケーション）		講義 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ
5	看護のコミュニケーションを身につけよう① （傾聴、共感的理解、話の聴き方）		講義 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ
6	看護のコミュニケーションを身につけよう② （自己決定の支援、患者理解と言葉かけ）		講義 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ
7	看護のコミュニケーションを身につけよう③　（コミュニケーション障害がある人の特徴、コミュニケーションと人間関係）		講義 ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ
8 9	コミュニケーション講座		KEC教育ｸﾞﾙｰﾌﾟより
10	終講テスト・解説		

使用テキスト：	参考書
基礎看護技術Ⅰ（医学書院）	老年看護技術（メジカルフレンド社） 看護のためのコミュニケーションと人間関係（中央法規）

評価の方法
終講テスト70点満点

授業科目	基礎看護技術論Ⅱ 看護過程	年次	1年次	単位	1単位	担当	平野　朋子
			後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
看護を系統的に実践するために必要な思考過程を理解し、ヘンダーソンの枠組みを用いた看護過程の展開技術を身につける。

到達目標
1.看護過程とは何か理解できる
2.看護過程の構成要素を理解できる
3.ヘンダーソン看護理論の１４項目を理解できる
4.ヘンダーソン看護理論に基づき看護過程の事例展開ができる

事前学習
前期で学んだ看護学概論、基礎看護技術論Ⅰ.Ⅲ、生活援助技術論Ⅰ.Ⅱ.Ⅲを復習しておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1~2	看護過程とは（構成要素） 看護過程の基盤となる考え方 （問題解決過程、クリティカルシンキング倫理的配慮と価値判断 リフレクション） 看護理論	講義	
3~9	事例展開演習（COPD） 情報の分析・解釈（ヘンダーソン看護理論の 14 項目）	事例展開 G.W	
10~12	関連図		
13~15	看護計画の立案・実施・評価		

使用テキスト	参考書
基礎看護技術Ⅰ.Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座　呼吸器（医学書院）	必要時提示

評価の方法：課題の提出状況/内容、授業への出席/参加度、試験による総合評価とする（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	基礎看護技術論Ⅲ フィジカルアセスメント	年次	1年次	単位	1単位	担当	礒垣　純子
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
看護実践の基礎となる基本的技術を身につけ、さらに対象に必要な看護が提供できるためのフィジカルアセスメントの方法について理解できる。

到達目標
1.　看護におけるフィジカルアセスメントの必要性と方法を理解し、実践できる能力を養う。
2.　原理、原則に基づき、正確なバイタルサイン測定の知識・技術が修得できる。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1回目 ～ 8回目	1）ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは 2）体温、呼吸、脈拍、血圧測定ついて 3）意識レベル、瞳孔測定について	講義 演習	
9回目 ～ 11回目	4）呼吸・循環系のフィジカルアセスメント 5）消化器のフィジカルアセスメント 6）筋・骨格系のフィジカルアセスメントについて 7）身体計測について		
12 回目 ～ 14回目	8）バイタルサイン測定演習 9）フィジカルアセスメント演習 10）身体計測演習		

使用テキスト	参考書
基礎看護学技術Ⅰ（医学書院）	フィジカルアセスメントが見える （メディックメディア）

評価の方法：
授業、演習態度・出席状況・レポート・終講試験を総合して評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	生活援助技術論Ⅰ 環境	年次	1年次	単位	0．6単位	担当	大森かほり
			前期	時間	18時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎援助技術について、知識・技術を身につける

到達目標
療養生活の環境を理解し、病室・病床の環境のアセスメントができる
看護における環境調整の意義と方法を理解できる
病床の環境整備、ベッドメーキング、リネン交換ができる

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	環境とは、療養生活の環境 病室の環境のアセスメントと調整	講義	
2	ベッドメーキングについて	講義	
3	シーツのたたみ方、下シーツの作り方	演習	
4	ベッドメーキングのデモストレーション	演習	
5	ベッドメーキング	演習	
6	臥床患者のリネン交換（デモストレーション含む）	講義・演習	
7	病床環境について考える	演習・GW	
8	環境整備	演習・GW	
9	終講試験		

使用テキスト	参考書
医学書院系統看護学講座　専門Ⅰ基礎看護技術Ⅱ	

評価の方法：
終講試験（60点）

授業科目	生活援助技術論Ⅰ 食生活	年次	1年次	単位	0．4単位	担当	森　都
			前期	時間	12時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎援助技術について、知識・技術を身につける

到達目標
対象の食事・栄養摂取のアセスメントができ、適した食事・口腔の清潔方法ができる
摂食・嚥下訓練について理解することができる
非経口的栄養摂取について理解することができる

事前学習
摂食・嚥下のメカニズム

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	食事援助の基礎知識	講義・GW	
2	医療施設で提供される食事の種類と形態	講義	
	食事摂取の介助		
3	摂食・嚥下訓練	講義	
	口腔ケア		
	非経口栄養摂取の援助		
4	経管栄養	講義	
	中心静脈栄養法		
5.6	食事の援助と口腔ケア演習	演習	

使用テキスト	参考書
医学書院系統看護学講座　専門Ⅰ基礎看護技術Ⅱ	

評価の方法：
終講試験（４０点）

授業科目	生活援助技術論Ⅱ 活動と休息	年次	1年次	単位	1単位	担当	深井　和恵
			前期	時間	30時間 (20時間)		実務経験の有無：有

学習のねらい

・あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術について、知識・技術を身につける。

・活動と休息の意義を理解し、安全・安楽な援助技術を修得する。

到達目標

1．活動制限による身体的・精神的・社会的影響を理解する。

2．睡眠のメカニズムを理解し、睡眠を妨げる要因・身体的変化を理解する。

3．あらゆる健康レベルにある対象の活動と休息の援助方法を理解する。

4．安全・安楽な罨法を実施できる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	・活動と休息の意義	講義	
2	・基本的活動の援助 良い姿勢、体位、移動、ボディメカニクス	講義	
3	・体位変換・ポジショニング	演習	
4	・移乗・移送・歩行の援助	講義	
5、6、7	・車椅子・ストレッチャー移乗と移送	演習	
8	・睡眠・休息の援助	講義	
9	・罨法	講義	
10	・温罨法・冷罨法	演習	
	・まとめ	講義	

使用テキスト	参考書
系統看護学講座専門Ⅰ　基礎看護学技術Ⅱ基礎看護学③　医学書院	

評価の方法：

出席状況・課題・筆記試験（筆記試験の採点は「活動と休息」７０％、「排泄」３０％合わせて１００％とする。評価の割合は授業の初回に提示する。）

授業科目	生活援助技術論Ⅱ 排泄	年次	1年次	単位	1単位	担当	深井　和恵
			後期	時間	３０時間 （１０時間）		実務経験の有無：有

学習のねらい

対象における排泄の意義を学び、排泄に関する生活行動を整えるための技術を学ぶ。

到達目標

１．あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術について、知識を習得する。

２．排泄の意義を理解し、対象に応じた援助方法を考え、実施できる

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
	１）排泄援助技術		
1	（１）　排泄の意義と重要性	講義	
2	（２）　排泄の援助に必要な知識	講義	
3	（３）　排泄の観察	講義	
4	（４）　排泄の援助技術　・グリセリン浣腸と床上排泄介助	講義・演習	
5	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③　医学書院	必要時、授業中に掲示する

評価の方法：

出席状況・課題・筆記試験（筆記試験の採点は「活動と休息」７０％、「排泄」３０％合わせて１００％とする。評価の割合は授業の初回に提示する。）

授業科目	生活援助技術論Ⅲ 清潔	年次	1年次	単位	1単位	担当	川島　千鶴
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

対象に応じた日常生活援助（清潔・衣生活）の方法について学ぶ。日常生活援助に必要な知識・技術・態度を学修する。

到達目標

1）身体の清潔の意義と重要性について理解する。
2）皮膚・粘膜の生理的知識に基づいた清潔の方法を理解する。
3）清潔の方法による身体への負担の違いを理解する。
4）患者の安全・安楽を考え、清潔の援助を実践することができる。

事前学習

なし

【学習スケジュール】

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	・清潔援助の基礎知識（皮膚・粘膜の構造と機能）	講義	
2	・清潔の意義と重要性について	講義	
3	・衣服を用いることの意義と身体の清潔の援助方法	講義	
4	（入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄）		
5～14	・お湯に触れてみよう（手浴の実施）	演習	
	・洗髪・整容・全身清拭・足浴・寝衣交換・陰部洗浄の演習	演習	
15	・筆記試験（60分）		

使用テキスト：	参考書：
教科書　系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③（医学書院）	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院

評価の方法：

プリントの提出状況

筆記試験・課題レポート・授業（演習）に取り組む態度　（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	診療援助技術論 与薬と看護	年次	1年次	単位	0.4単位	担当	大森　かほり 森　都 実務経験の有無：有
			後期	時間	12時間		

学習のねらい

対象の治療、処置に伴って実施する与薬における基本的援助について学修する。

到達目標

安全な与薬に必要な知識と技術が習得できる。

事前学習

与薬演習に用いる薬剤について

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1回目 ～ 6回目	1）与薬の目的と与薬時の看護師の役割 ①与薬の目的と与薬の種類 ②薬剤の管理 ③安全確保の基礎知識 2）与薬の援助技術演習 ①6Rの実践 ②経口与薬の実際 3）注射法について ①注射の基礎知識 ②皮下注射・筋肉注射 ③静脈内注射、点滴静脈内注射の方法 4）輸血について 5）皮下注射・筋肉注射演習 6）点滴静脈内注射・輸液管理演習	講義 演習	

使用テキスト	参考書
基礎看護技術Ⅱ（医学書院）	必要時提示

評価の方法：

出席状況　終講テスト（感染・検査と看護との総合評価とする。評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	診療援助技術論 感染	年次	1年次	単位	0.3単位	担当	廣瀬　智香子
			後期	時間	10時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

感染は完全に予防することはできないが、正しい知識と技術とそれらを適切なタイミングで活用することで、感染のリスクを最小限にとどめることはできる。こうした感染管理の考え方に基づき、正しく適切に基本的感染予防技術が選択・実践できるようにする。

到達目標

1. 感染予防の重要性を理解し、看護師ができる対応策を学ぶ
2. 標準予防策および感染経路別予防策を学び、適切に選択・実践できる
3. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学び、基本的な無菌操作が実践できる
4. 感染性廃棄物の取り扱い方法と実際の対策について理解する。

事前学習

微生物学や病理学での免疫について復習する。

基礎看護技術Ⅰ、第2章・感染防止の技術を一読しておく。

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	感染予防の基礎知識	講義	
2	標準予防策について	講義・演習	衛生学的手洗い
3	感染経路別予防策について	講義	
4	洗浄・消毒・滅菌と無菌操作	講義・演習	無菌操作と滅菌手袋
5	感染性廃棄物の取り扱い	講義	ガウン・手袋の着脱法

使用テキスト	参考書
基礎看護技術Ⅰ（医学書院）	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術～第2版～（医学書院）

評価の方法：

終講試験と演習の参加度など総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	診療援助技術論 診療・検査	年次	1年次	単位	0.3単位	担当	川島　千鶴
			後期	時間	8時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

診療に伴う看護を行う際に基本的な診療援助技術について学修する。

到達目標

1）診察の介助の目的を理解する。
2）X線撮影・CT・MRI・内視鏡検査・超音波検査肺機能検査・核医学検査について理解し、それぞれの検査時の看護を学ぶ。
3）胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺の概要を知り、介助の実際を学ぶ。
4）血液検査、尿検査、便検査、喀痰検査について理解し、それぞれの検査時の看護の実際を学ぶ。
5）生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。
6）心電図検査、心電図モニター、SPO2モニター、血管留置カテーテルモニターについて理解し、看護の実際を学ぶ。

事前学習

なし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1　～ 2	診察・検査・処置の介助技術	講義	
	症状・生体機能管理技術		
3 4	静脈血採血	演習	

使用テキスト：	参考書：
系統看護学講座　専門分野1　基礎看護技術II 医学書院	看護がみえる　Vol2　臨床看護技術 MEDIC　MEDIA

評価の方法：

試験・学内演習の記録と態度・授業態度を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	治療処置別看護	年次	1年次	単位	1単位	担当	森　都
			後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

あらゆる対象に共通する経過について理解し、看護の視点を養う。

あらゆる対象に共通する治療・処置別看護について学び、看護実践力の基礎技術とする。

到達目標

１．看護における経過の概念と、各経過における看護の特徴を理解する。

２．主な治療処置別看護について学び、基本的な技術を習得する。

事前学習

診療援助技術論について復習しておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～2	経過に基づいた看護	講義	
3～14	治療処置別看護 輸液療法 創傷処置 身体侵襲を伴う検査 酸素吸入 排痰ケア 吸引 持続吸引（胸腔ドレナージ） 吸引 救命救急処置技術（一次救命処置） 死の看取りの援助（エンゼルケア含む）	講義 演習	
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
基礎看護技術Ⅱ（医学書院）	

評価の方法：

出席状況・演習の参加状況・レポート・終講試験を総合して評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	症状別看護	年次	2年次	単位	1単位	担当	深井　和恵 廣瀬　智香子 実務経験の有無：有
			前期	時間	30時間		

学習のねらい

疾患等により、対象が知覚する様々な機能障害に関連した症状の意味と、看護上のニーズに影響及ぼす機序を理解し、症状緩和のための援助技術を実践できる能力を習得する。

到達目標

１）主要な症状の定義、発生機序、病態を説明できる。

２）疾患に関連した症状が生活に影響を及ぼす過程を理解する事ができる。

３）症状を軽減するための援助方法を理解し実践ができる。

事前学習

専門分野Ｉでの基礎看護技術の復習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1回 ～ 10回	・発熱のある患者の看護 ・ショック状態にある患者の看護 ・浮腫のある患者の看護 ・褥瘡のある患者の看護 ・貧血のある患者の看護 ・意識障害のある患者の看護 ・呼吸困難のある患者の看護 ・血圧異常のある患者の看護 ・排泄障害のある患者の看護 ・疼痛のある患者の看護	講義 演習	
11回 ～ 14回	・事例による看護実践の展開	協同学習 技術演習	
15回	・終講テスト		

【使用テキスト】	参考書
症状別看護過程（医学書院） 臨床看護総論（医学書院）	必要時提示

評価の方法：

終講テスト・TBLによるピア評価（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護研究概論	年次	2年次	単位	1単位	担当	平野　朋子
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

　看護研究のプロセスおよび事例研究について教授し、看護事象を科学的根拠に基づいて分析し、考察するための基礎的な知識を養う。

到達目標

1.看護実践における看護研究の役割について理解する。

2.看護研究のプロセスおよび事例研究について理解する。

3.看護技術を科学的根拠に基づき理論的に分析し、より良い方法を考察することができる。

事前学習

特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	看護研究の意義と目的　研究のプロセス　研究デザイン　研究計画書	講義・演習	
2	倫理上の問題　データ収集法　データ分析法　論文構成 文献検索　文献の活用　ケーススタディとは	講義	
3	ケースの決定　文献検索　研究計画書の作成	GW	
4～5	ケースの作成	GW	
6	抄録の作成　発表原稿の作成	GW	
7	発表準備	GW	
8	発表　まとめ		

使用テキスト	参考書
黒田裕子の看護研究 Step by Step（医学書院）	

評価の方法：

提出物の提出状況・内容、グループワークでの貢献度、出席状況を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	地域環境論	年次	1年次	単位	1単位	担当	平野　朋子
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

　地域の特性や、地域での様々な場におけて生活する人々とその家族について理解し、その人らしい暮らしを支える看護を考えるために必要な基本姿勢について学ぶ。

到達目標

1．地域の特性について理解することができる。

2．様々な生活の場について理解し、暮らしを支える看護について考えることができる。

事前学習

　「生駒市」や「四条畷市」のホームページを見ておく。

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	「生駒市」や「四条畷市」について知らべる。	GW	
2			
3	「生駒市」や「四条畷市」について発表		
4	「生駒市」や「四条畷市」の地域調査の準備	GW	
5	「生駒市」や「四条畷市」の地域調査		
6			
7	調査結果のまとめ	GW	
8	発表		

使用テキストなし	参考書

評価の方法：

出席状況・グループワークの参加状況・レポート（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	地域・在宅看護概論	年次	2年次	単位	1単位	担当	大池秀子
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

在宅看護を必要とする地域で生活する人とその家族の特徴を理解する。

地域で生活する・療養する人とその家族を支える保健医療福祉についての知識を学ぶ。

到達目標

1．在宅看護の特徴・役割や昨日について述べられる。

2．在宅看護における対象と目的・活動の特徴について理解できる。

3．在宅看護における看護者の役割と機能について理解できる。

4．在宅看護における基本的理念と倫理的思考や概念について理解できる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	1．在宅看護の目的と特徴 ①在宅看護の目指すもの ②在宅看護における看護師の役割	講義	
2	2．在宅看護の対象者 ①対象者の特徴 ②住まい方と健康 ③家族	講義	
3	3．在宅療養の支援 ①在宅看護の提供方法 ②療養の場の移行	講義	
4～5	4．在宅看護における法令・制度とその活用	講義	
6～7	5．在宅看護の展開 ①在宅看護過程のポイント　②在宅看護過程の展開方法 ③療養上のリスクマネジメント④在宅看護のおける権利保障	講義1	
8	終講試験		

使用テキスト：　在宅看護論（医学書院）	参考書

評価の方法　出席状況、授業態度、レポート、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	地域・在宅看護実践論Ⅰ	年次	2年次	単位	1単位	担当	高山　雅子
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

・暮らしの場で行われる日常生活援助技術および医療管理を必要とする地域で生活する人々とその家族への看護について学ぶ。

・地域・在宅看護に必要な訪問マナーおよびコミュニケーション技術について学ぶ。

到達目標

1.在宅療養における日常生活援助および医療管理の実際について理解できる。

2.地域・在宅看護に必要な訪問マナーおよびコミュニケーション技術を身につける。

事前学習

特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	在宅看護におけるコミュニケーション・訪問マナー	講義	
2	食生活・嚥下に関する援助	講義	
3	排泄に関する援助	講義	
4	移動・移乗に関する援助	講義	
5	清潔に関する援助	講義・演習	
6	服薬に関する援助	講義	
	在宅における医療管理		
7	①褥瘡の予防とケア	講義	
8	②尿道留置カテーテル、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）	講義	
9	③経管栄養法	講義	
10	④在宅中心静脈栄養法（HPN）	講義	
11	⑤非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）	講義	
12	⑥在宅酸素療法（HOT）	講義	
13	⑦在宅人工呼吸療法（HMV）	講義	
14	⑧疼痛緩和	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
地域・在宅看護論（医学書院）	

評価の方法：

終講試験にて評価する。

授業科目	地域・在宅看護実践論 II	年次	2年次	単位	1単位	担当	平野　朋子
			後期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
・地域で生活している人々とその家族や生活背景などをアセスメントし、必要な看護を考える能力を養う。
・地域で生活し続けることを支援するための社会資源の活用について考える能力を養う。

到達目標
1.地域で生活しながら 療養する人々とその家族の看護に必要なアセスメントについて理解することができる。
2.地域で生活しながら療養する人々とその家族に必要な健康レベルに応じた看護を考えることができる。
3.地域で生活し続けることを支援するための社会資源の活用について考えることができる。

事前学習
特になし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	地域・在宅看護過程の展開のポイント	講義	
2	地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際	講義	
3	認知症状のみられる療養者とその家族への援助	講義	
4 5	がん終末期にある療養者とその家族への援助	講義・DVD	
6	統合失調症の療養者とその家族への援助	講義	
7	心筋梗塞の既往のある療養者とその家族への援助	講義・GW	
8	パーキンソン病・ALSの療養者とその家族への援助	講義	
9	脳卒中後遺症のある療養者とその家族への援助	講義	
10	糖尿病の療養者とその家族への援助	講義・GW	
11	医療的ケア児とその家族への援助	講義	
12	COPDの療養者とその家族への援助	講義	
13	感染症のある療養者とその家族への援助	講義	
14	在宅療養・地域包括ケアシステムにおける災害対策	講義・DVD	
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
地域・在宅看護論（医学書院）	

評価の方法：
終講試験、提出物の提出状況・内容、グループワークでの貢献度、出席状況を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	地域・在宅看護実践論Ⅲ	年次	2年次	単位	1単位	担当	平野　朋子
			後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

・事例を通して、地域で生活しながら療養する人々とその家族の意向や希望を中核とした「目標志向型思考」で対象を捉え、個別性を重視した看護を考える能力を養う。

・地域で生活するあらゆる年齢層、様々な健康レベルにある人々を包括的に支援する「地域共生社会における包括的ケア」という視点で考える能力を養う。

到達目標

1.地域・在宅看護における看護過程の展開の方法を理解することができる。

2.地域で生活しながら療養する人々とその家族の意向や希望に寄り添った看護援助を考えることができる。

3.地域で生活するあらゆる年齢層、様々な健康レベルにある人々が受けている保健・医療・福祉の支援活動、多職種の連携、社会資源の繋がりを地域関連図に表すことができる。

事前学習

事例に関する学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	地域・在宅看護論の看護過程の展開の進め方について 地域・在宅看護過程展開のポイントについて	講義	
2	事例の紹介 情報の整理	個人ワーク	
3	情報の解釈・分析	個人ワーク	
4～5	全体像の把握	個人ワーク	
6	訪問記録の書き方	講義 個人ワーク	
7～8	地域関連図の書き方	講義・GW	

使用テキスト	参考書
地域・在宅看護論（医学書院）	

評価の方法：

提出物の提出状況・内容、グループワークでの貢献度、出席状況を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	チーム医療論	年次	2年次	単位	1単位	担当	大池　秀子
			後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

地域包括ケア・地域共生社会の実現のため、多様な場で暮らす、さまざまなライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の提供にむけて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、課題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現をめざす能力を養う。

到達目標

1．事例を通して、他職者の役割・機能の理解を深め、多職種連携について考えるとともに看護師の役割を考えることができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	科目目標・学習の進め方の説明 連携事例の検討	講義	
2	他職者の役割と機能の理解 看護師の役割についての考察	グループワーク	
3～5	他職種の専門職者より役割や機能について学ぶ ・薬剤師　・診療放射線技師　・管理栄養士 ・理学療法士　・作業療法士	講義	
6～8	他職の専門学校生（理学療法士）とのそれぞれの立場より事例への援助について意見交換し、グループ発表する。	グループワーク 発表	事例の共有

使用テキスト	参考書

評価の方法：

出席状況・グループワークの参加状況・レポート（他職種者とのワークより学んだこと）

（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	成人看護学概論・保健論	年次	1年次	単位	1単位	担当	礒垣　純子
			後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

成人期にある対象を深く広く理解し、成人看護に有用な理論ならびに概念を学び、看護に応用する能力を養う。

到達目標

1．成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とその発達課題が理解できる。
2．成人期にある人を取り巻く社会と健康に関する動向、健康問題の特徴が理解できる。
3．成人期にある人の健康状態や健康問題に対応した基本的な考え方や方法が理解できる。
4．成人期にある人の健康問題を明らかにし、健康の保持増進に努めることができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	授業の進め方：プロジェクト学習について 成人期にある人の理解 ※5~6名の編成にて、7グループにわかれる （青年期2G　壮年期3G　向老期2G）	講義 G.W	
2～3	青年期・壮年期・向老期の特徴 ※グループでの発表	成果発表	
4～5	成人期の健康特性 ①成人期における健康障害の特徴 ②保健・医療・福祉システム ③1次、2次、3次予防の現状と対応	講義 G.W	
6～7	健康生活に適応・維持する看護、健康教育 ①ヘルスプロモーション ②アンドラゴジー	講義 ワークシート	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　成人看護学概論・保健論 （医学書院）	必要時提示

評価の方法：

筆記試験（80点）プレゼンテーション（10点）ポートフォリオ（10点）

授業科目	急性期看護論	年次	2年次	単位	1単位	担当	有川　万里子 大森　かほり 実務経験の有無：有
			前期	時間	30時間		

学習のねらい

生命の危機や心理的危機に遭遇した成人の身体的、精神的、心理的影響を理解し、急性期から回復期へと危機を脱する為に必要な看護について学修する。さらに、手術等により救急看護を必要とする対象への診療の介助、看護技術を理解し、いのちを救うために協働する医療チームの特性と多職種連携について学修する。

到達目標

1. 生命の危機的状況になった成人の身体的、精神的、社会的影響が理解できる。
3. 急激な変化をもたらす主要な疾患や感染症の症状、検査、治療‘（手術を含む）、看護を理解する。
4. 急性期における医療チームメンバーの特性と関連する多職種連携について理解できる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～4 5～8	1）急性期看護の概念、特徴について ①急性期の主要症状とメカニズム ②急性期看護に必要な理論 ③ICUの看護について 2）感染症患者の看護 3）消化管疾患患者の看護（　潰瘍性大腸炎・クローン病　） 4）手術を受ける患者の看護 ①手術を受ける患者、家族の特徴 ②術前、術中、術後の看護 ③麻酔、外科的侵襲による生体反応　④手術後の回復を促進するための看護　⑤社会復帰への援助	講義 演習	
9～14	5）手術を受ける患者の看護の実際 ①乳房切除術を受ける患者の看護　（乳がん） ②肺切除術を受ける患者の看護（肺がん） ③脳神経機能障害のある患者の看護　（くも膜下出血・脳出血） ④食道切除術を受ける患者の看護（食道がん） ⑤排泄機能障害のある患者の看護（直腸の手術（人工肛門造設術）） ⑥循環器障害のある患者の看護について（心筋梗塞・心不全）	講義 演習	
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
臨床外科看護総論論･臨床外科看護各論(医学書院)	必要時提示

評価の方法：終講テスト　レポート提出　授業態度　（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	回復期看護論	年次	2年次	単位	1単位	担当	大森かほり
			前期	時間	30時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

回復期における身体的・精神的・社会的特徴と、そのレベルに応じた援助方法を学修する

到達目標

1．回復期におけるリハビリテーション看護を理解し、対象の回復と自立、社会復帰に向けて退院後の生活を支える看護を理解することができる

2．骨、関節、筋系及び神経系の疾患をもつ患者の看護を理解することができる

3．各疾患の事例を通し、対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し解決能力を養うことができる

事前学習：解剖生理学：脳神経、運動器疾患

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	リハビリテーション看護の定義と理念 リハビリテーション看護の対象　障害とは、障害受容について	講義	
2	経過別にみるリハビリテーション、多職種連携	講義	
3	運動器疾患をもつ患者の看護、看護の役割	講義	
4	検査の看護、保存療法を受ける患者の看護	講義	
5	変形性膝関節症患者の看護①	講義	
6	変形性膝関節症患者の看護②	講義・演習	
7	腰椎椎間板ヘルニア患者の看護	講義	
8	大腿骨骨折患者の看護①	講義	
9	大腿骨骨折患者の看護②	講義・演習	
10	四肢切断後の看護	講義	
11	脊髄損傷患者の看護①	講義・演習	
12	脊髄損傷患者の看護②	講義･DVD	
13	脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護の役割	講義	
14	脳梗塞患者の看護・くも膜下出血患者の看護	講義 DVD	
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
医学書院系看護学講座⑦脳・神経　⑩運動器 医学書院系看護学講座　別巻リハビリテーション看護	

評価の方法：

提出物　出欠状況　終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	慢性期看護論	年次	２年次	単位	１単位	担当	坪内　多恵
			前期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

成人期における疾病や障害と共生するためのセルフマネジメント能力の獲得に向けた、看護実践の基本となる思考プロセスを学修する。

到達目標

１．成人期にある人々とその家族の特徴を理解し、慢性疾患とともに生活する対象について学ぶ。

２．成人の学習の特徴をふまえ、成人みずから健康上の課題を解決できるための援助方法を理解する。

事前学習

解剖生理学Ⅰ・Ⅱの内容と、疾病論の内分泌・代謝、腎・泌尿器、感覚器、免疫・アレルギーの内容を復習しておく。

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	慢性期疾患の看護 ①慢性期とは　②慢性期患者の特徴　③受容過程と看護	講義	
2~3	皮膚疾患の看護	G.W	
4	感覚器疾患の看護		
5	免疫・アレルギー疾患の看護		
6~7	内分泌疾患の看護		
8~9	腎・泌尿器疾患の看護		
10	代謝疾患の看護		
11~14	糖尿病患者の看護	演習	
15	終講試験		

使用テキスト	参考書
臨床看護総論（医学書院） 系統別看護学講座　⑥⑧⑪⑫⑬（医学書院）	必要時提示

評価の方法：筆記試験、演習課題（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	終末期看護論	年次	2年次	単位	1単位	担当	西窪　昌代
			後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
終末期にある患者の全人的苦痛と死の受容過程を理解し、人生の最後の時を支える看護を学ぶ。また家族の精神的苦痛を理解し、患者の死後もケアが必要であることを知る。
この学習から自己の「死生観」を深めることができる

到達目標
①終末期における心身の変化を理解し、全人的苦痛を緩和する援助方法について理解する
②終末期にある患者がその人らしく残された時間を全うできるように家族を含めた看護が考えられる
③終末期看護を通じて自己の「死生観」を深めることができる

事前学習　　終末期に関しての書籍や新聞などを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１～14	１．終末期にある患者・家族の特徴 ・全人的苦痛 ２．終末期看護の特徴 ①エンド・オブ・ライフケア ・終末期を過ごす場所・死亡の場所の理解、チーム医療 ・死をめぐる倫理的課題の理解（意思決定支援など） ②死の受容過程（キュープラロスの「死にゆく過程」） ③悲嘆 ３．終末期にある患者・家族への援助 ①子ども・認知症・高齢者・難病患者の看護 ②苦痛の緩和（疼痛・その他の症状（呼吸困難、浮腫、食欲不振、睡眠障害など） ③死の看取り（危篤時・臨終時・死亡時の看護、家族も含めて） ④エンゼルケア ４．終末期にある患者の看護 ①呼吸器疾患患者の看護	講義 DVD グループワーク	
１５	②消化器疾患患者の看護（膵臓がん） ③血液・造血器疾患患者の看護 終講試験		

使用テキスト：成人看護学総論（医学書院）・緩和ケア（医学書院） 血液・造血器、消化器、呼吸器（医学書院）	参考書 必要時授業で提示する

評価の方法
終講試験、レポート提出状況、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	がん・周術期看護論（がん看護）	年次	２年次	単位	０．５単位	担当	深井　和恵
			後期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
がんの病態・治療の特徴、日常生活への影響を理解し、がん患者や家族がその人らしい生活が送れるよう看護援助方法について学ぶ

到達目標
①がん患者・家族が抱える問題を理解できる
②がんの苦痛や治療に対する看護について理解できる
③日常生活への影響を理解し、他職種による連携・協働を理解できる

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１～７	１．がん医療の現在 ・がんを取り巻く状況、 ２．がんの病態と臨床経過（肝臓がん） ・がんの特徴と臨床経過を知る ３がん患者の看護 ・がん患者の苦痛に対するマネジメント(トータルペイン)など ４．がん性疼痛について ・がん性疼痛のメカニズム、痛みに対する薬物療法など ５．がん治療に対する看護 ・化学療法・放射線療法・手術療法 ６．がん治療の場と看護 ・外来がん看護の現状、がん患者療養支援など多職種連携 ７．補完療法 ・補完代替医療、マッサージ、音楽療法、栄養療法など ８．緩和ケア ・全人的苦痛の理解、症状マネージメント、家族ケアなど	講義 グループワーク	
８	終講試験		

使用テキスト	参考書
緩和ケア・がん看護（医学書院）	授業の中で紹介する

評価の方法
終講試験、レポート提出状況、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	がん・周術期看護論 （周術期看護）	年次	2年次	単位	0．5単位	担当	森　都
			後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

急性期看護論で学習した周術期看護の知識をもとに、胃がんで手術を必要とする患者事例を通し、周術期における対象の看護上の問題を理解する。さらに、演習を通して術後の回復を支援するために必要な臨床判断能力や看護実践能力につなげる事ができる。

到達目標

1. 手術を必要とする患者の事例を通し、周術期における患者の看護について述べることができる。

侵襲による生体反応の機序を理解した上で術後合併症予防のための看護が実践できる。

事前学習

手術を必要とする患者の疾患について

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1 ～ 8 回	1）手術が必要となった患者の対象の理解 2）クリニカルパスと看護問題の抽出 3）看護計画の立案 4）周術期における看護場面のシミュレーション演習 5）退院後の生活を支える看護について	講義 演習	

使用テキスト	参考書
臨床外科看護総論　臨床外科看護各論	必要時提示する。

評価の方法：

出席状況　授業態度　レポート提出　パフォーマンス評価（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	老年看護学概論 保健論	年次	1年次	単位	1単位	担当	大池　秀子
			後期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
老年期の特徴的な健康問題について学び、解決のための看護を理解する

到達目標
１．老年期における対象の特徴を理解し、老年看護の目的と意義について理解できる。
２．高齢者をとりまく環境と保健・医療・福祉における老年看護の役割を理解できる。

事前学習
テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～2	老年期における対象の理解 高齢者のイメージについてのＧＷ　発表	講義・ＧＷ	
3	老いるとは？老化とは？ 老年期の発達課題	講義 講義	
4～5	超高齢社会と社会保障 介護保険　高齢者虐待　身体拘束　権利擁護 老年看護のなりたち	講義	
6～7	高齢者のヘルスアセスメント	講義	
8	終講試験		

使用テキスト：	参考書
老年看護学（医学書院）	「老年看護　病態・疾患」（医学書院）

評価の方法
出席状況、授業態度、レポート、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	老年看護論Ⅰ	年次	2年次	単位	1単位	担当	有村由美子 北村　美穂 実務経験の有無：有
			前期	時間	30時間		

学習のねらい

加齢変化が日常生活に及ぼす影響や健康上の問題を抱えた高齢者を理解し支援方法を習得する。

到達目標

1．加齢の変化が日常生活に及ぼす影響を理解し、生活支援の方法を理解する。

2．健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護について理解する。

3．ライフサイクルの最終段階にある対象の生や死について理解を深め、人格・価値観・いのちを尊重する態度を養う。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	1、高齢者の生活機能を整える看護の展開	講義	
2	A 日常生活を支える基本的活動	講義	
3	B 食事・食生活　C 排泄　D 清潔	講義	
4	E 生活リズム　F コミュニケーション	講義	
5	G セクシュアリティ　H 社会参加	講義	
6	2、治療を必要とする高齢者の看護 A 検査を受ける高齢者の看護　B 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義	
7	C 手術を受ける高齢者の看護　D リハビリテーションを受ける高齢者の看護　E 入院治療を受ける高齢者の看護	講義	
8	3、エンドオブライフケア A エンドオブライフケアの概念　B「生ききる」ことを支えるケア C 意思決定への支援　D 末期段階に求められる援助	講義	
9.10	4、老年看護技術	演習	
11.12	5、老年症候群	GW　演習	
13	6、アルツハイマー型認知症①	講義	
14	アルツハイマー型認知症②	講義	
15	まとめ	講義	

使用テキスト	参考書
系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学　医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護病態・疾患論　医学書院	

評価の方法：

出席状況・筆記試験・レポート課題・授業や演習の参加状況など総合的に評価（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	老年看護論Ⅱ	年次	2年次	単位	1単位	担当	中谷　秀美 北村　美穂 実務経験の有無：有
			後期	時間	30時間		

学習のねらい

・高齢者の健康と QOL の維持・向上に対するリハビリテーションについて学ぶ。

・社会の変化に伴う高齢者の医療・保健・福祉の場における看護について学ぶ。

到達目標

1．高齢者の日常生活の自立に向けたリハビリテーションについて理解し、援助方法を学ぶことができる。

2．高齢者の保健医療福祉施設及び在宅における看護について理解することができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	1, 日常生活を支える基本的活動	講義	
	・基本動作と環境のアセスメント		
2	・日常生活活動の評価	講義	
3	・廃用症候群のアセスメントと看護	講義	
4	2, 治療を必要とする高齢者の看護	講義	
5	・リハビリテーションを受ける高齢者の看護	演習	
6	3, 生活・療養の場における看護	講義	
	・高齢者とヘルスプロモーション		
7,	「住み慣れた場所で最期まで」を実現する地域包括ケア	講義	
8,	・保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義	
9,	介護保険施設の特徴と看護	講義	
10,	地域密着型サービスの特徴と看護	講義	
11,	・治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義	
12,	4, 高齢者のリスクマネジメント	講義	
13,	・高齢者と医療安全　・高齢者と救命救急　・高齢者と災害	講義	
14、	5, 介護が必要な高齢者の社会資源について	講義	

使用テキスト	参考書
系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学　医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護病態･疾患論　医学書院	

評価の方法：

出席状況・筆記試験・レポート課題・授業や演習の参加状況など総合的に評価（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	老年看護論Ⅲ	年次	2年次	単位	1単位	担当	森　都
			後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

老年期の発達課題と加齢に伴う変化を理解し、看護過程展開の展開方法を学ぶ。

到達目標

1．対象の疾患を理解することができる

2．老年期の発達課題、加齢に伴う変化を理解し、疾患・治療による日常生活への影響をアセスメントすることができる

3．アセスメントに基づいて対象の全体像を捉え、看護問題を挙げることができる

4．高齢者が望む生活に向けて、自立や安全を考慮した具体的な計画を立案することができる

事前学習

看護過程展開に必要な事例に関連した学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1)	老年看護の看護過程について　　事例紹介　事前学習	講義	
2)	事前学習	演習	
3)	情報の整理	講義・演習	
4)	アセスメント	講義・演習	
5)	アセスメント	演習	
6)	関連図	GW・演習	
7)	看護計画	講義・演習	
8)	看護計画　　提出	演習	

使用テキスト	参考書
系統学看護講座　専門分野Ⅱ老年看護学　　医学書院 系統学看護講座　専門分野Ⅱ老年看護　病態・疾患論　　医学書院	

評価の方法：

出席状況、演習の参加状況など学習態度、提出物を総合的に評価　（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	小児看護学概論	年次	2年次	単位	1単位	担当	川島　千鶴
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

近年の子どもがおかれている社会状況における課題や胎生期から思春期までの成長発達過程や代表的な発達理論、子どもの安全に対する支援のあり方など基礎的知識を学ぶ。

到達目標

1)子どもの健康と権利を守るため、子どもと家族を支援するための法律や政策について理解できる

2)子どもの特性について、身体的・精神的成長発達を理解し、小児看護の役割を理解できる

3)あらゆる健康レベルにある子どもの生活の場を理解し発達段階に応じた援助について学ぶ

事前学習

なし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～7	1)小児看護の特徴と理念 (1)小児看護の目ざすところ　(2) 小児と家族の諸統計 (3)小児看護の変遷　(4)小児看護における倫理 (5)小児看護の課題 2)子どもの成長・発達 (1)成長発達とは　(2)成長・発達の進み方（一般的原則） (3)成長・発達に影響する因子　(4)成長の評価　(5)発達の評価 3)小児各期の特徴と看護 (1)新生児・乳児　(2)幼児・学童　(3)思春期・青年期 ４）家族の特徴とアセスメント ５）子どもと家族を取り巻く社会	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看学概論　小児臨床看護総論　医学書院	

評価の方法：

出席状況・筆記試験等（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	小児看護学保健論	年次	2年次	単位	1単位	担当	廣瀬　智香子
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術を教授し子どもや家族に必要な支援を考える上での援助や教育指導について学修する。

到達目標
1)あらゆる健康レベルにある子どもの生活の場を理解し発達段階に応じた援助について学ぶ。
2)小児看護学に必要な看護の知識・技術を学び、病棟・外来における看護に活かせる。

事前学習
なし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1～7	1）病気・障害をもつ子どもと家族の看護 2）子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 3）子どもの疾病の経過と看護 4）子どものアセスメント ①コミュニケーション②バイタルサイン③身体測定 ④身体的アセスメント 5）症状を示す子どもの看護 ①呼吸困難②発熱③痙攣④下痢・便秘⑤嘔吐⑥脱水⑦発疹 6）検査・処置を受ける子どもの看護 ①与薬②輸液管理③抑制④検体採取⑤清潔⑥呼吸症状の緩和	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門Ⅱ　小児看学概論　小児臨床看護総論　医学書院	

評価の方法：
出席状況・筆記試験等（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	小児看護論Ⅰ	年次	2年次	単位	1単位	担当	西野　正人 福永　千佳 実務経験の有無：有
			前期	時間	30時間		

学習のねらい

新生児および小児に生じる健康障害について、病態・症状・診断・治療・関わりなどについて学修する。

到達目標

1)子どもの主な疾患の特徴を理解し、病態・症状・診断・治療などについて理解する。

2)「事故・外傷」、「子どもの虐待」など近年の小児医療の課題と対策について理解する。

事前学習

なし

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１～１４	1)染色体異常・体内環境により発生する先天異常 2)新生児のおもな疾患 3)代謝性疾患 4) 内分泌疾患 5)免疫疾患・アレルギー疾患、リウマチ性疾患 6)感染症*予防接種 7)呼吸器疾患 8)循環器疾患 9)消化器疾患 10)血液.造血器疾患 11)悪性新生物 12)腎・泌尿器疾患および生殖器疾患 13)神経疾患 14)運動器疾患 15)皮膚疾患 16)眼疾患 17)耳鼻咽喉疾患 18)精神疾患・発達障害 19)事故・外傷 *蘇生法 20)子どもの虐待	講義	
１５	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論　医学書院	

評価の方法：出席状況・筆記試験等（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	小児看護論Ⅱ	年次	２年次	単位	１単位	担当	川島　千鶴
			後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
子供の健康問題の経過や置かれている状況、症状から見た看護、コミュニケーションを含む看護技術やそれぞれの健康レベルに応じた多様な特性のある子どもとその家族を対象にその子らしく生活できるように援助や教育指導について学ぶ

到達目標
① 小児看護学に必要な看護の知識・技術を学び、病棟・外来における看護に生かせる
② 健康障害や入院が子供や家族に及ぼす影響について理解することができる
③ 疾病の経過に応じた看護や障害を持つ子供とその家族の理解と社会支援について理解する
④ 各疾患の病態を理解し症状や治療に対しての看護を考えられ援助につなげられる

事前学習
子どもの成長発達についてや子供と家族の関係について勉強しておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１～7	1. 各疾患の看護 ①呼吸器系疾患　②循環器系疾患　③腎疾患　④消化器系疾患 ⑤染色体異常　⑥代謝異常　⑦アレルギー疾患　⑧感染症	講義 グループワーク	
8	終講テスト		

使用テキスト	参考書
小児看護学概論・小児臨床看護学総論（医学書院） 小児臨床看護各論（医学書院）	小児看護に関しての参考書（必要時指示）

評価の方法
終講試験、レポート提出状況、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	母性看護学概論・保健論	年次	２年次	単位	１単位	担当	深井　和恵
			前期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

母性看護の対象理解を、女性のライフサイクルにおける性と生殖や母子統計、法規など幅広い視点で捉え、価値観の多様化に応じたヘルスプロモーションのための基礎的知識を修得する。

到達目標

１．母性の概念及び母性看護の特性が理解でき、
２．母性看護の対象を取り巻く現状と課題を理解し、母性看護の意義と役割そして機能を理解できる
３．リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の水準維持・増進が理解できる
４．女性のライフサイクル各期の特性を理解し、健康問題と課題に関する看護が理解できる
５．母性看護の変遷、現状と動向が理解でき、関連する法や施策について理解できる。

事前学習

グループワークの予定と課題発表について説明します。課題にそった事前学習を行ってください。

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	1）母性の概念と母性看護の意義・役割 2）母性看護の変遷と動向	講義	
2	（1）母性看護の変遷	講義	
3	（2）リプロダクティブヘスル／ライツ （3）セクシュアリティの概念と意義、性的マイノリティー	講義	
4	（4）母性看護における法律・統計・施策 （5）母性保健の現状	講義	
5	3）母性の身体的・心理的・社会的特性 （1）生殖の構造と機能、性分化（発生）	講義	
6	4）母性看護の対象 （1）女性のライフサイクル各期の健康障害と看護	講義	
7	5）母性看護における生命倫理 （1）生命倫理と看護倫理・生殖補助医療技術の進歩と課題	講義	
8	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	参考書
系統学看護講座　専門分野Ⅱ　母性看護学①母性看護学概論・保健論　医学書院	「国民衛生の動向」、(厚生労働統計協会) 「母性論」(ルヴァ・ルービン（新道幸恵他訳：医学書院)

評価の方法：　筆記試験　１００％

授業科目	母性看護論Ⅰ	年次	２年次	単位	１単位	担当	愛甲　美香子
			前期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

妊娠・分娩・産褥期および新生児の定義、そして生理的変化と適応、病態について学び、看護するための基礎的知識を習得し、科学的根拠に基づき判断できる能力を養う

到達目標

１．妊娠・分娩・産褥期及び新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復するための基礎的理論と方法を身体的・心理的（精神的）・社会的側面から学ぶ。

２．妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の正常な経過から逸脱し異常な状態にある母子に対し、適切な看護を行うための知識と技術を学ぶ。

事前学習

科学的根拠に基づき判断できる能力を養うために、妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の生理的変化をしっかり理解するまで、テキストを熟読する

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１、２	1)妊娠期の経過		
３，４	(1)妊娠期の身体的特性	講義	
	(2)妊娠期の心理・社会的	講義	
	(3)妊婦と胎児のアセスメント	講義	
５，６	2)分娩期の経過		
７，８	(1)分娩の要素	講義	
	(2)分娩の経過	講義	
	(3)産婦・胎児・家族のアセスメント	講義	
９，１０	3)産褥期の経過		
１１、１２	(1)産褥経過	講義	
１３	(2)褥婦のアセスメント	講義	
	4)新生児の生理と看護		
１４	(1)新生児の生理	講義	
１５	(2)新生児のアセスメント	講義	
	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	参考書
系統学看護講座　専門分野Ⅱ　母性看護学② 母性看護学各論　医学書院	横尾京子編他：ナーシング・グラフィカ　母性看護学① 母性看護実践の基本　（メディカ出版） 仁志田博司：新生児学入門 第４版　（医学書院）

評価の方法：　筆記試験１００％

授業科目	母性看護論Ⅱ	年次	２年次	単位	１単位	担当	深井　和恵 川島　千鶴 実務経験の有無：有
			後期	時間	３０時間		

学習のねらい

妊娠、分娩、産褥期及び新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復をめざした看護について学ぶ。また、妊娠、分娩、産褥期及び新生児期の異常について理解し、母子に応じた看護の方法を学ぶ。

到達目標

１．妊娠・分娩・産褥期及び新生児期を通して、母児の健康の保持・増進・回復するための看護実践をする意味について身体的・心理的（精神的）・社会的側面から理解できる。
２．胎外生活への適応過程を理解し、児の健康な発達を促すための援助方法を理解することができる。
３．母親役割過程獲得に向けた援助方法としての母性看護技術が理解できる
４．妊娠・分娩・産褥期及び新生児期の異常について理解し、適切な看護が提供できる方法を学ぶ
５．演習を通して、母性看護技術が習得できる。

事前学習

科学的根拠に基づいた判断能力を養う為、各期の生理的変化を理解するまでテキストを熟読する

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１、２	1)妊娠期の看護	講義	
	（１）妊娠期の身体的・心理的・社会的特性	DVD	
３，４	（２）妊婦と胎児、家族のアセスメントと看護	演習	
	２）分娩期の看護	講義	
５，６	（１）分娩の要素と分娩経過	DVD	
	（２）産婦・胎児、家族のアセスメントと看護		
	３）新生児期の看護	講義	
７，８	（１）新生児の生理	DVD	
	（２）新生児のアセスメントと看護	演習	
９，１０	４)産褥期の看護	講義	
	（１）産褥経過	DVD	
	（２）褥婦のアセスメント	演習	
	（３）褥婦と家族の看護		
	5)妊娠、分娩、産褥、新生児期の異常と看護	講義	
１５	終講試験	筆記試験	

使用テキスト	参考書
系統学看護講座　専門分野Ⅱ　母性看護学② 母性看護学各論　医学書院	横尾京子編他：ナーシング・グラフィカ　母性看護学 ①母性看護実践の基本（メディカ出版）

評価の方法：筆記験１００％

授業科目	母性看護論Ⅲ	年次	3年次	単位	1単位	担当	廣瀬　智香子
			前期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

正常褥婦事例を基に、母子の看護過程の展開技術を習得する。ウエルビーイングの視点で対象をとらえ妊娠・分娩・産褥期の変化を一連の経過としてアセスメントし、母子に応じた援助方法を考える能力を養う。

到達目標

１．正常な妊娠期・分娩期・産褥期の事例を基に、既習の知識を統合してウエルネスの視点で対象をとらえ、母子の看護過程の展開方法が理解できる。

事前学習

母性看護学概論・保健論、母性臨床看護論Ⅰ・Ⅱで学んだことを復習して授業に臨み、母子双方からの視点で捉えるこができるように事前学習をしていく。また、母性の対象に備わっている力を引き出せるための支援のあり方について復習しておきましょう

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	1）母性看護における看護過程	講義	
	（1）母性看護の看護過程の展開、ウエルネス診断とは	講義	
2	（2）母性看護における対象把握	講義	
3	（3）看護上の問題	講義	
4	（4）看護目標と具体策の立案	講義	
5	（5）評価	講義	
6，7，8	2）正常褥婦事例の看護過程の展開	グループワーク	

使用テキスト

系統学看護講座　専門分野Ⅱ　母性看護学①
　母性看護学概論・保健論　医学書院
系統学看護講座　専門分野Ⅱ　母性看護学②
　母性看護学各論　医学書院

参考書

授業時必要に応じて紹介する

評価の方法：

レポート、グループワーク及び演習態度（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	精神看護学概論・保健論	年次	1年次	単位	1単位	担当	竹内　昌子
			後期	時間	1５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

あらゆる人々の「こころ」の健康について考え，精神的健康の回復、維持増進をはかることをめざし、精神看護学の特徴と基本概念を学修する

到達目標

1．精神の健康について理解し、精神障害を持つ人と社会について知ることから看護が担う役割や機能について理解する

2．精神保健医療の歴史的変遷を踏まえ、精神科領域で必要な法律と制度を理解する

3．地域おける精神保健医療の実際について理解する

4．災害時のこころのケアについて理解する

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	精神障害と精神保健 精神保健の目的と精神医療と方向性 精神の健康とは、ストレスマネジメント	講義	
2	入院医療中心から地域生活へ 地域精神保健における第一予防、第二次予防、第三次予防	講義	
3	リカバリーを機軸とした精神医療	講義	
4	精神障害をもつ人との病の体験と精神看護	講義･DVD	
5	精神障害と治療の歴史 精神領域で必要な法律と制度	講義	
6	地域におけるケアと支援 災害時のメンタルヘルスと看護	講義・GW	
7	看護師における感情労働、看護師のメンタルヘルスへの支援 リエゾン精神看護	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学① 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②	

評価の方法：

提出物　出欠状況　終講試験（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	精神看護論Ⅰ	年次	２年次	単位	１単位	担当	村　竜二 有村　由美子 実務経験の有無：有
			前期	時間	３０時間		

学習のねらい

精神疾患の理解とコミュニケーション技術を通しての自己の理解について学修する

到達目標

１．主要な精神疾患とその症状を理解する。
２．精神科における治療・検査について理解する。
３．精神障害をもつ人とのコミュニケーションについて理解する。
４．精神障害をもつ人との「患者－看護師」関係のあり方を理解する
５．プロセスレコードの使い方とその意義を理解する

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	精神症状の理解（意識・知覚・思考・感情・意欲・認知の理解など）	講義	
2	精神科における治療（精神療法、薬物療法、電気けいれん療法など）	講義	
3	疾患の理解①統合失調症	講義	
4	疾患の理解②統合失調症	講義	
5	疾患の理解③気分障害：双極性障害、抑うつ障害群	講義	
6	疾患の理解④神経症性障害、ストレス関連障害	講義	
7	疾患の理解⑤アルコール依存症	講義	
8	疾患の理解⑥摂食障害、パーソナリティ障害	講義	
9	疾患の理解⑦てんかんなど	講義	
10	ケアの前提・原則・方法①（精神障害をもつ人とのかかわり方）	講義・演習	
11	ケアの前提・原則・方法②（精神障害をもつ人とのコミュニケーション）	講義・演習	
12	プロセスレコードとは		
13	プロセスレコードの一例	講義・演習	
14	プロセスレコード記入	講義・演習	
15	終講テスト		

使用テキスト	参考書
メヂカルフレンド社　精神看護学② 　精神障害をもつ人の看護	

評価の方法：

提出物　出欠状況　終講テスト（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	精神看護論Ⅱ	年次	2年次	単位	1単位	担当	有村由美子 大森　かほり 実務経験の有無：有
			後期	時間	３０時間		

学習のねらい
精神障害者とその家族に対して必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学修する

到達目標
精神看護の基本技術について理解する。

事前学習
精神障害についての理解、精神看護学概論・保健論　精神臨床看護論Ⅰ　社会保障制度

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	精神科での入院治療の意味	講義	
2	精神科病棟という治療的環境と患者の生活	講義	
3	事故防止、安全管理と倫理的配慮：隔離・身体拘束時の看護	講義	
4	精神症状のある患者の看護	講義	
5～8	不安　引きこもり　脅迫行為　幻覚・妄想 自殺企図　等	講義 講義	
8～１２	主要精神疾患をもつ患者の看護 てんかん　統合失調症　躁うつ病　小児自閉症　等	講義	
13～14	主要な精神科治療と看護		
15	終講テスト		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ精神看護の展開 精神看護学②	

評価の方法：
出欠状況　終講試験　提出物（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	精神看護論Ⅲ	年次	2年次	単位	1単位	担当	有村　由美子
			後期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
地域での精神障害者とその家族に対して必要な看護を実践するための基礎的知識・技術を学修する
医療の場・災害時におけるメンタルヘルスと看護の実際を学ぶ

到達目標
精神障害者の社会復帰支援、地域生活支援について理解する
リエゾン精神看護について知ることができる
災害時における看護の実際を知ることができる

事前学習
精神障害についての理解、精神看護学概論・保健論　精神臨床看護論Ⅰ　社会保障制度

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	地域におけるケアと支援	講義	
2	地域生活を支えるシステムと社会資源	講義	
3	精神科作業療法、作業療法士的アプローチ、リハビリテーション療法	講義	
4	SST、デイケア	講義	
5	地域精神福祉と社会参加 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	講義	
6	リエゾン精神看護の実際	講義	
7	災害時の看護	講義	
8	終講テスト		

使用テキスト	参考書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開 精神看護学②	

評価の方法：
終講試験

授業科目	看護の統合と 実践概論 （看護管理）	年次	２年次	単位	０・５単位	担当	西浦　聡子
			前期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

看護管理の基礎的な知識を学ぶとともに、看護業務を行う一員としての役割と責任について考える。また、チーム医療及び多職種との協働、看護教育について学び広い視野を持って看護について考える。

到達目標

① 看護管理についての基礎的知識を学び、組織の中での看護師の役割を理解する

②チームにおけるリーダーシップ、他職種との協働について理解し、マネージメント能力の必要性を考えることができる

⑤ 看護の動向と看護を取り巻く諸制度について理解することができる

事前学習

病院の組織や看護の動向と看護の諸制度について調べる

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１～7	１．看護管理 １）看護管理の定義　２）看護管理の対象と管理過程 ２．病院における看護組織 １）病院の目的、理念と組織 ２）看護部門の組織と看護職員の管理 ３）チーム医療（多職種との連携・協働） ３．看護サービスのマネージメント １）看護業務の実践 ・看護単位の機能、人材のマネージメント、労働環境 ・施設・設備環境の整備 ・物品・情報の管理 ・災害に対しての管理、サービスの評価 ４）チームにおけるリーダーシップとマネージメント ５）看護を取り巻く諸制度 ・看護職と法・制度 ・看護職の養成および認定制度 ・医療制度	講義 グループワーク 演習	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
看護管理（看護の統合と実践①）医学書院	必要時授業で紹介する

評価の方法

終講試験、レポート提出状況、出席状況などを総合して評価する（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護の統合と実践概論 医療安全	年次	2年次	単位	0．5単位	担当	大池　秀子
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

医療安全における基礎的な知識、および看護職の責務と役割について理解する。

到達目標

1．医療安全の基本的な知識を説明できる。
2．看護業務の範囲と責任について説明できる。
3．ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明ができる。
4．事故防止の意味と必要性について説明ができる。

事前学習

テキストを見ておく

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	事故防止の考え方を学ぶ。	講義	
2	患者に投与する業務における事故防止	講義	
3	継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止	講義	
4	療養上の世話の事故防止	GW	
5	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	講義	
6	医療安全とコミュニケーション	GW	
7	看護師の労働安全衛生上の事故防止 組織的な安全管理体制への取り組み	講義	
8	終講試験		

使用テキスト：	参考書
看護の統合と実践②（医学書院）	

評価の方法

出席状況、授業態度、終講試験を総合して評価します。（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護の統合と実践論Ⅰ（国際看護）	年次	３年次	単位	０．５単位	担当	高田　勝子
			前期	時間	１５時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
国際社会における日本の役割を学び、医療、看護の分野における国際協力の在り方について考える

到達目標
１．国際社会における看護を必要とする人々の状況から日本における国際看護について考える
２．世界の健康問題、諸外国の看護を理解し国際協力について考える

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
１～7	１．世界の健康問題の現状 ・国際看護学の対象 ・国際看護学に関連する基礎知識 ・グローバルヘルス ２．国際協力のしくみ ・国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 ・国際救援の調整 ・開発協力 ３．文化を考慮した看護 ４．開発協力と看護 ・開発途上国と看護 ５．国際救援と看護 ・近年の世界における災害と難民・国内避難民の状況 ・国際救援活動の基本理念 ・近年の特徴的な災害・紛争救援活動の概要	講義 グループワーク	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
災害看護学・国際看護学（医学書院）	授業時必要に応じて紹介する

評価の方法
終講試験、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護の統合と実践論Ⅰ（災害看護）	年次	3年次	単位	0．5単位	担当	西浦　聡子
			前期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
災害活動の法的根拠や、様々な職種の人々と協働し、災害時の看護活動を円滑に行うために必要な災害医療の基礎的知識を理解する。また救援者を含めたこころのケアについても考えることができる

到達目標
1．災害時に必要な看護活動を円滑に行うための災害医療の基礎的知識について理解する
2．被災者・救援者の心理について理解することができる

事前学習
地域における災害時の取り組みについて調べる

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1 ～ 7	1．災害看護の歴史 2．災害医療の基礎知識 ・災害の種類と健康被害、災害医療の特徴、災害と情報 ・災害対応にかかわる職種間・組織間連携 ・災害看護と法律、近年の災害における課題と対応 3．災害看護の基礎知識 ・災害看護の役割、災害看護の対象、災害看護の特徴と看護活動 4．災害サイクルに応じた災害看護 ・急性期・慢性期・復興期・静穏期 5．被災者への支援活動 6．国内外の災害医療活動 7．災害とこころのケア ・被災者・救護者のこころのケア 8．地震災害看護 ・救護活動（救護所の開設、トリアージなど）	講義 グループワーク 演習	
8	終講試験		

使用テキスト	参考書
災害看護学・国際看護学（医学書院）	授業時必要に応じて紹介する

評価の方法
終講試験、出席状況（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護の統合と実践論Ⅱ（看護技術の統合演習）	年次	３年次	単位	１単位	担当	大池　秀子
			前後期	時間	３０時間		実務経験の有無：有

学習のねらい
既習の知識・技術を統合し、卒業時に求められる知識・技術・態度を習得し、対象の状態に応じた看護が実践できる能力を養う。看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にする。

到達目標
１．複数患者を受け持つ状況を考え、時間管理や優先度を考慮できる。
２．自己の看護実践力の評価ができ、課題を明確にできる。

事前学習
基礎看護技術、症状別看護等

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	オリエンテーション、事例提示（４事例）	演習(個人)	
2,3	２事例のアセスメント、計画立案	演習(個人)	
4	複数患者の１日の行動計画立案	演習(個人)	
5,6	行動計画演習・振り返り	演習	
7	ベストプラクティス（NO９）作成	演習	
8	ベストプラクティス（NO９）実践	演習	
9,10	全体発表		
11	多重課題時の対応について	GW	
12	看護におけるリーダーシップ、メンバーシップとは	GW	
13,14	OSCE 演習	演習	
15	まとめ、振り返り		

使用テキスト	参考書
医学書院　統合分野　看護管理　等	

評価の方法：
OSCE、提出物、出欠状況（評価の割合は授業の初回に提示する）

授業科目	看護の統合と実践論Ⅲ （ケーススタディ）	年次	3年次	単位	1単位	担当	深井　和恵
			前・後期	時間	15時間		実務経験の有無：有

学習のねらい

・ケーススタディを通して、主体的実践により研究態度を養い、自己の看護観を育む。

到達目標

1.看護に対する考え方を明らかにすることができる。

2.主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身に付けることができる。

事前学習

【学習スケジュール】

授業回数	授　業　内　容	授業方法	備考
1	ケーススタディの目的・目標 ケーススタディの具体的なまとめ方について	講義	
2	ケースの選択 研究計画書の作成	個人ワーク	
3	文献検索 集録・抄録の作成 （夏季休暇を利用して担当教員より指導を受ける）	個人ワーク	
4	発表原稿の作成	個人ワーク	
5	発表プログラムの作成		
6	発表準備		
7～8	発表	発表	

使用テキスト	参考書

評価の方法：

出席状況、研究態度、発表態度、発表内容を総合的に評価する。（評価の割合は授業の初回に提示する）